

太宰府市

公文書館通信

2019.5

vol.2

太宰府市公文書館パネル展

太宰府の史跡と風景—栗崎正勝写真展—

開催中!!

■展示

日時：1月4日（金）▶6月28日（金）

午前8時30分～午後5時

場所：上下水道事業センター1階

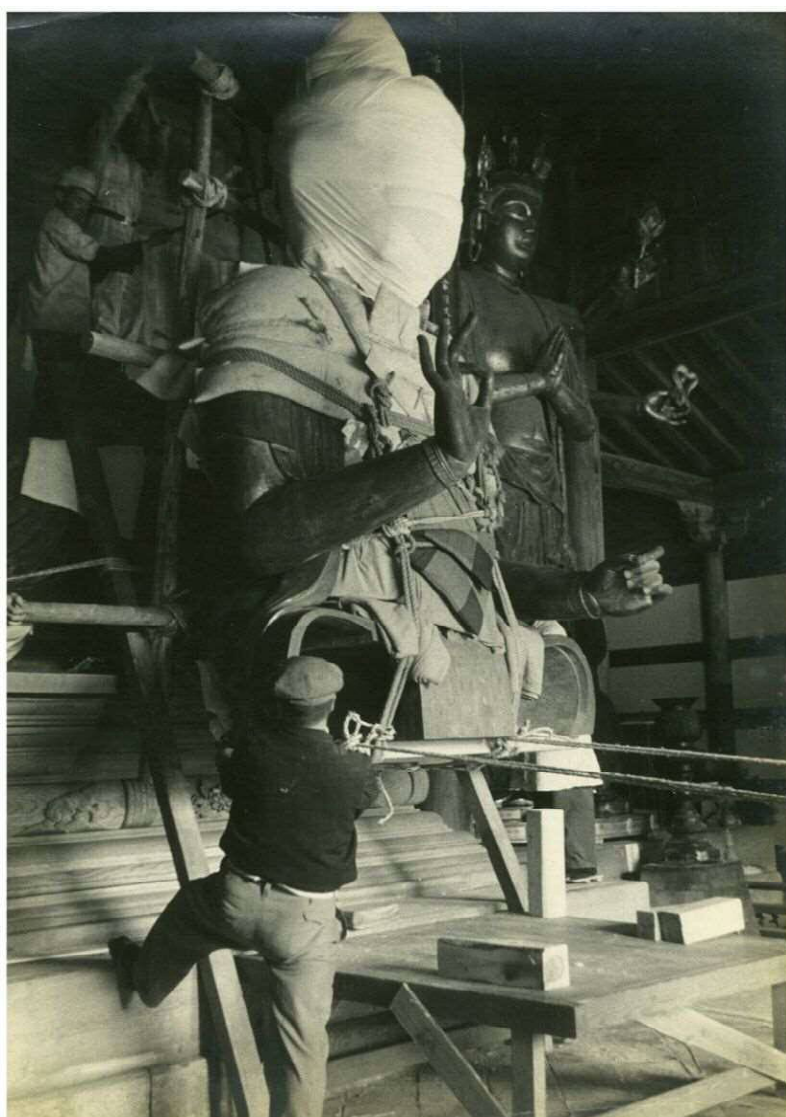
ビクターフロア

（無休、観覧無料）

※5/7（火）～5/31（金）は市役所1階

市民ギャラリーにおいて展示

（市役所開庁時のみ、観覧無料）



上：仏さまの引越（日本写真美術展入選）

左：兜跋毘沙門天立像（観世音寺蔵）



太宰府の史跡と風景—栗崎正勝写真展—

栗崎正勝氏は、飯塚市出身の在野のカメラマンです。同氏は、戦後筑紫野市内の印刷会社に勤務したことからカメラを始め、後に、太宰府市や観世音寺の出版物の撮影を手掛けます。

今回展示した写真群は、氏が昭和30～40年代に撮影した太宰府の史跡や風景です。すでに失われた過去の風景、構図等に工夫を凝らした堂舎や仏像など、いずれも貴重な作品です。

特に、観世音寺の仏像の宝蔵への移座を記録した「仏さまの引越」（表紙掲載）は昭和34（1959）年10月29日、日本写真美術展に入選を果たしました*。



水城跡

1. 史跡と遺物

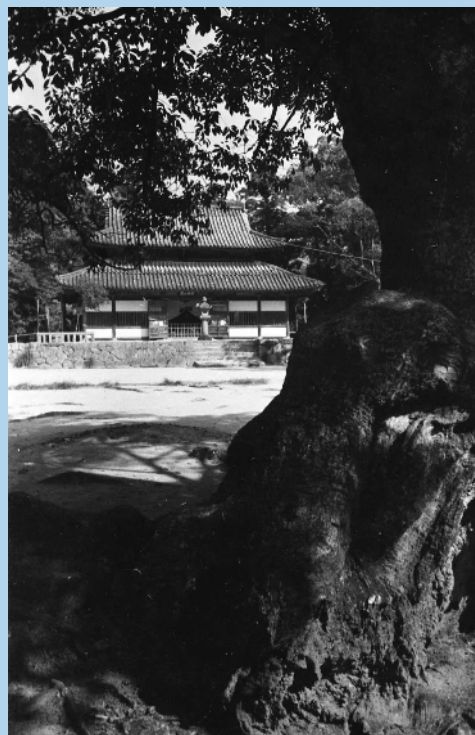
栗崎氏は太宰府の史跡や遺物などを、数多く撮影しています。上の写真は、水城跡を西側の丘陵から見下ろした構図で撮影しており、水城を割って走る蒸気機関車からは、煙が立ち上っています（国鉄鹿児島本線）。

線路脇に等間隔に立てられた送電線の柱が確認できることから、昭和36（1961）年6月の電化開通前後（翌年10月1日に門司—鳥栖間には蒸気機関車が走らなくなるので、それ以前）の撮影であることが分かります**。

2. 寺社と仏像

同氏は市内の寺社の堂舎や仏像なども、たくさん撮影しています。観世音寺講堂を撮った右の写真は、手前に境内の樟を配置することにより、黒々とした幹と光の当たった講堂とのコントラストが見事です。

また、表紙の仏像写真は、観世音寺の兜跋毘沙門天立像です。斜め前方から光を当て被写体も斜めに置いたことで、陰影ができてより立体的にみえるとともに、左腰の曲線が際立ち、ライティングやカメラアングルに工夫が感じられます。



観世音寺講堂

*『毎日新聞』夕刊昭和34（1959）年11月12日号4面

**九州歴史資料館学芸員渡部邦昭氏のご教示による。

3. 太宰府の四季

四季折々の風景写真も栗崎氏は得意としていました。写真群の中には、実を付けた柿の枝の間から見える建物や風景など、季節感あふれる写真を多く含みます。

右の写真は、降りしきる雪の中に佇む観世音寺宝蔵です。境内に積もる雪が冷え冷えとした冬の空気を伝えています。



雪の中の観世音寺宝蔵

4. 仏像の移座

写真群の白眉は、昭和 34 (1959) 年 8 月、観世音寺宝蔵建設時に、荒廃した講堂・金堂から新造の宝蔵へ仏像を運び込む様子を撮影した記録写真です。

この移座は 5m 級の仏像数体を含む、とても大掛かりなものでした。氏の写真には、仏像を台座から引き抜き、台に寝かせて少人数で宝蔵へ運び込み、修復を施した上で、再度台座に立てる一連の様子が、こと細かに記録されています。

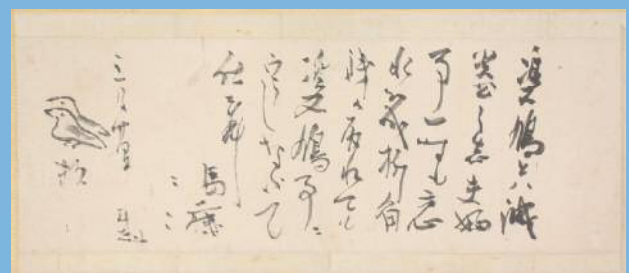


仏像の運びだし

資料紹介

齋藤家資料

齋藤家資料は、秋月藩御用絵師として、また大宰府在住の町絵師として活躍した、江戸後期の絵師齋藤秋圃とその息子梅圃に関する資料群です。内容的には画稿類(下絵や手本等)を主としますが、文書類も全部で150点余り遺されていて、全国的に著名でありながら謎の多い秋圃の人となりについて、新しい情報を与えてくれます。



写真は、味わい深い絵や書で現在も人気の高い博多の禅僧・仙厓(聖福寺123世住持仙厓義梵)から秋圃宛てた書状です。秋圃が描いた仙厓像、仙厓が描いた秋圃像が伝わるなど、両者は親しく交流していました。宛名にある2羽の鳥は鳩を表し、「双鳩」と名乗った秋圃のことを示しています。仙厓のシャレ心といえるでしょう。

掲 示 板

開催中!!

太宰府市公文書館パネル展 年号があらたまること —新元号「令和」によせて—

本市は、新元号ゆかりの地として、全国的な注目を浴び、大きな盛り上がりを見せています。

このことにちなみ、あらためて「年号」の歴史に着目し、古代から現代に至るまで、年号が制定される際の時代ごとの特徴を、パネルで紹介します。

日時：5月7日（火）～5月31日（金）

午前8時30分～午後5時

場所：上下水道事業センター1階

ビジターフロア（無休、観覧無料）

内容：①最初の年号「大化」

②平安時代の改年号

③南北朝時代の年号

④江戸時代の改年号

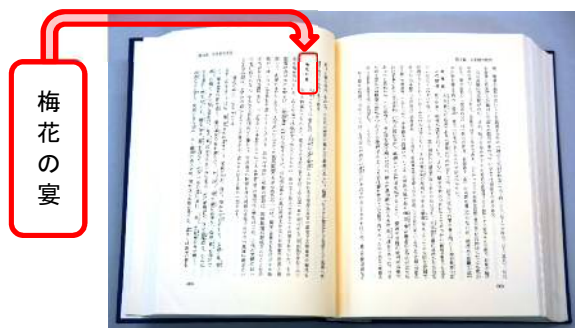
⑤「一世一元」の時代へ



展示風景

新元号「令和」の出典『万葉集』所収の
“梅花の宴”について、『太宰府市史』
で詳しく解説されています。
この機会にぜひお求めください!!

- ◎「梅花の宴」を詳しく知りたい場合は『太宰府市史 通史編 I』
 - ◎「梅花の宴」の原文および注釈を調べたい場合は『太宰府市史 古代資料編』
 - ◎『万葉集』の中で、大宰府で詠まれた歌を調べたい場合は『太宰府市史 文芸資料編』
- 販売価格：1冊 5,000円
（郵送の場合は送料実費が別に必要です）
問い合わせ：太宰府市公文書館



梅花の宴



上：通史編 I、下：市史全巻（13巻14冊）

アクセス

公共交通機関でお越しの場合は、コミュニティバス「まほろば号」（北谷回り）をご利用ください。西鉄五条駅 or 西鉄太宰府駅（太宰府線）⇒上下水道事業センター下車



ご利用の案内

観覧時間 午前9時～午後4時30分
（観覧のための入館は午後4時まで）
閉館日 毎週土曜日・日曜日、祝日
年末年始（12月29日～1月3日）

太宰府市公文書館通信 vol.2

編集：太宰府市公文書館
〒818-0110
福岡県太宰府市御笠五丁目3番1号
電話：(921)2322（直通、FAX兼用）
E-mail: kobunshokan@city.dazaifu.lg.jp
発行：太宰府市
発行日：令和元年5月20日